



タブレットの解答用紙

これまでも何度かタブレットを使った代替手段（令和4年5月号『嬉しい』、令和4年6月号『ふつうだからわからない』、また、実際に町内で行われている工夫や支援の方法（令和4年7月号『実際の工夫いろいろ』）について書いてきましたが、今回は「タブレット試験」について触れていきたいと思います。

今、軽井沢中学校では「書き」に著しい困難を抱えている生徒で、本人・家庭からの申し出と病院からの裏付け（診断書や情報提供書）がある生徒に対して、中間テストや期末テストなどの定期試験を、タブレットを使って解答する、という方

法をとっています。どのような方法かという点、問題用紙はみんなと同じもの（必要のある子にはルビ付きや拡大したもの）が配布されます。そして、解答用紙については、紙ではなく、タブレットに紙の解答用紙と同じ形式のものを保存し、そこに記号などの書きやすいものはタッチペンで答えを記入していく、長文での答えなどはキーボードで打っていく、という方法です。問題や解答用紙を作るのは、それぞれの教科の先生方ですが、それをタブレットに落とし込んでいくのはICT支援員になります。ICT支援員は先生方と協働して、解答する際に不具合のないように工夫を凝らした「タブレット解答用紙」を作成してくれます。

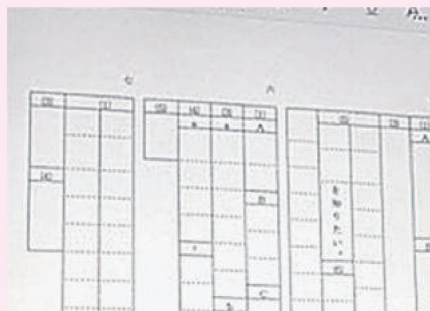
実際の試験の場面では、タブレットを使って解答することに對して、「みんなと違うことをするのはいやだ」と、別室で試験を受けることを希望する生徒がいる一方、「別に気にならないから教室で受ける」という

生徒もいます。いずれの場合も、生徒本人の希望で「どこで受けるか」を事前に担任と相談し選んでいきます。周りが「よかれ」と思っただけでタブレットを勧めても、使う本人が「みんながどう思うか」「二人だけ違うのは嫌」と抵抗感や拒否感を持っていることは、実際のケースでも多く出会います。

そうなる前、タブレット以前に「できること」を一緒に探しながら、徐々にタブレットを使うことのメリットを実感できるように「できる」経験を地道に重ねていきます。そうして、ようやくタブレットを使うことに前向きになる子ども達もいます。やがては、代替手段を使うことに對する理解がもつと深まり、「必要だから使う」「みんなと一緒に教室で受ける」という感覚が「使わない大人」や「ほかの生徒」に定着し、みんなも使う本人も「それがあたりまえ」の環境にしていけるようになりますね。



記号など書き込んだ方が早いものはタッチペンで記入し、文章などは解答欄に打ち込んで解答



解答前の国語の解答用紙

過去の「こころラボ」は、町ホームページからご覧いただけます。

軽井沢の植物と方言 72



山茄子？ 成熟した実の色を茄子にたとえて… ナツハゼ 夏楡

町内にも自生し、北海道、本州、四国、九州の山地の林縁などに生える落葉低木です。9月上旬頃から黒色の実をつけ始め、11月中旬頃まで楽しめます。

方言と由来等

- ① コンピラハジキ
金比羅山にあることに由来するそうです。
 - ② サルマメ
猿の食する豆の意味と推測されています。
 - ③ ヤマナス
成熟した実が茄子の色に似ていることに由来します。
- 【参考文献】佐藤邦雄（1978）
信州佐久の植物方言
- 【問い合わせ先】
植物園 ☎48-3337